

## ◇編集後記◇

東北の雪国に来て十年になるが、今年ほど豪雪に悩まされた冬はない。大雪のためすでに全国で100人以上の人が亡くなられた。雪下ろし中の転落事故、雪に埋もれての凍死など痛ましいニュースが聞こえてくる。高齢化の進んだ農村での厳しい現実がそこには見え隠れしている。雪下ろしは大変な重労働であり、安全衛生の問題であるということをこの冬は思い知らせてくれた。このような豪雪の話題はローカルな問題のように思えるかもしれないが、そこで生活している人にとっては喫緊の課題であり、学問的にも取り組むべき必要があると思われる。例えば、夜を徹して除雪作業を行う除雪労働者の過酷な労働の実態などは、産業衛生学の観点からもっと研究されるべきだろう。また、昨年末には山形県庄内地域でJR東日本・羽越線の脱線事故があり多数の死者が出た。この事故では、不幸にして私と面識のあった方が事故に

遭われた。原因は予測できない突風であると推測されているようだが、本当に安全面での対策は万全であったのかという問題は検証されなければならないだろう。産業衛生学の直面する課題は日々押し寄せてくるという思いを今年の冬をしのぎながら強く感じるのである。

さて、本誌の編集を担当してさまざまな論文を読ませていただくと、新しい課題に次々と取り組む会員の姿を頼もしく思うことが多い。2006年という新しい年を迎えて、多くの方々が気持ちを新たに仕事に取り組みされていることだろう。去年はアスベスト問題が降って湧いたかのように持ち上がった。今年はどうなるのだろうか。先が見えにくい世の中になったが、良い年であるようにと祈るばかりである。

(本橋 豊)

## 「産業衛生学雑誌」編集委員会

委員長：竹下達也（和歌山医大）

副委員長：圓藤陽子（東京労災病院）、武林 亨（慶應大）、堤 明純（岡山大）、

本橋 豊（秋田大）、森 満（札幌医大）

荒木田美香子（大阪大）、有澤孝吉（徳島大）、市場正良（佐賀大）、掛本知里（東京女子医大）、上島通浩（名古屋大）、車谷典男（奈良医大）、甲田茂樹（高知大）、河野公一（大阪医大）、西條清史（金沢大）、榊原久孝（名古屋大）、澤田晋一（産医研）、塩飽邦憲（島根大）、笹島 茂（国立保健医療科学院）、埴田和史（滋賀医大）、谷川 武（筑波大）、錦戸典子（東海大）、橋本英樹（帝京大）、濱田篤郎（海外勤務健康管理センター）、保利一（産業医大）、森河裕子（金沢医大）、森田 学（北海道大）、森本泰夫（産業医大）、八幡勝也（ヒューマンメディア財団）、若林一郎（山形大）

〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目29番地8 公衆衛生ビル4階

電話 03-3356-1536 ファックス 03-5362-3746 振替 東京 00100-7-133495 番